

令和7年度総長賞受賞者一覧

被推薦者・団体名	推薦対象分野	推薦理由・受賞歴等
農学研究科 応用生命科学専攻 博士後期課程3回生 イマイズミ コウ 今泉 滉	学業	<ul style="list-style-type: none"> ・光合成の根幹反応の効率を世界で初めて向上させるなど、常識を覆す成果で光合成研究に多大に貢献。 ・光合成の中核を担う光エネルギー変換装置の光化学系II(PSII)に関して、その反応効率を飛躍的に高める世界初のアミノ酸変異を発見、仕組みを解明。 ・国際誌の筆頭著者論文6報、国際学会等で受賞7件、国際会議の運営代表に選出。
理学研究科 物理学・宇宙物理学専攻 博士後期課程3回生 カワモト タイシ 川本 大志	学業	<ul style="list-style-type: none"> ・物理学最大の未解決問題の一つである「量子重力理論における情報喪失問題」に対し素粒子論・統計力学・量子情報理論という本来は独立した三分野を融合させた独創的研究手法を確立、数学的に厳密な枠組みによる世界初の解明に迫った。 ・学術誌への単著論文掲載、査読付き論文10本を出版、国際会議・セミナーでの招待講演15件、学術賞5件の受賞歴あり。 ・素粒子論分野で最も権威ある国際会議「Strings」で世界中の若手から厳選されるStrings Fellowshipsに2年連続で選出。
医学研究科 医学専攻 博士課程4回生 タケウチ マリエ 竹内 万理恵	学業	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥類有毛細胞再生における新たな分子制御機構を解明し、ヒト難聴への新規治療戦略の基盤を開拓。 ・世界的にも希少となる鳥類有毛細胞再生実験系を駆使した独創的な研究により、有毛細胞再生における新しい分子メカニズムを解明。 ・Proceedings of the National Academy of Sciences (PNAS)誌に掲載、国内学会受賞を通じて高く評価される。
教育学部 4回生 京都大学熱気球部(代表) カザハリ リョウタ 風張 僚太	課外	<ul style="list-style-type: none"> ・第29回熱気球全日本学生選手権にて総合優勝、第52回北海道バルーンフェスティバル(BLS部門)にて優勝、両大会において、代表者(パイロット)は教育学部4年の風張僚太が務めた。
法学部 4回生/工学部 4回生 京都大学ヨット部 スズキ リョウタロウ ソワ ノブアキ 鈴木 亮太郎(代表)/岨 伸明	課外	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年度全日本学生ヨット個人選手権大会(2025年8月27日から31日にかけて豊田自動織機 海陽ヨットハーバーにて開催)で優勝。本学史上初、旧帝大32年ぶりの快挙。スポーツセクション制度を有する私立大学強豪校が選手層・活動資金・競技艇などの機材面において圧倒的に優位性を誇る中、国立大には不可能とされた壁を破り全国制覇を達成。本学の名誉と存在感を全国に知らしめることに貢献。

学業 3件

課外活動 2件

合計 5件